

## 入院支援の面談を開始して

医療連携・患者支援センター 入退院支援部門 岡田 薫美



当院では、4月17日より予約入院する患者さんに対して、入院が決定した時点で看護師が面談を行い、日常生活のこと、病気・治療に対する思いなどを伺う「入院前支援」の業務を開始し、専任の看護師7名が対応しています。これまでには入院してから行っていたことを入院前から行うことで、患者さんが入院後の治療、療養生活がイメージでき、安心して入院できるように支援することを目的としています。また、状況に応じて薬剤師、理学療法士、栄養士、ソーシャルワーカーなどの多職種の専門職が関わっていきます。たとえば手術の場合「今飲んでいるお薬を続けて飲んでいて良いのか」など薬のことは薬剤師に、「食欲がなく食べられない」などの場合は栄養士と連携をはかり、コンディションを整えて入院できるようお手伝いをさせていただきます。また、「入院が必要といわれたけれど入院費用について不安がある」という方や「入院したあと、自宅に帰ってからの生活に不安がある」という方についても、お話を伺うことで入院する前に色々な整理や準備をしておくことなど総合的に支援するのが「入院前支援」の業務です。現在は、70歳以上の方、がんの病気の方、介護保険を受けている方を対象にさせていただいている。もちろん、それ以外の方も入院前に相談したいことがあるという方は随時対応させていただいている。

入院前支援の業務を始めて2ヶ月半が経ちました。4月は途中からでしたが半月近くで120名、5月は1ヶ月で276名の方に関わらせていただきました。患者さんからは、「初めての入院で不安で元気をなくしていたけれど、話を聞いて入院後のイメージがついて元気を取り戻した」「入院後自宅に残される夫が心配だったけれどサポートが整って安心して入院できる」等の声が聞かれています。入院前からさまざまなお手伝いをさせていただくことで、患者さんの身体的・精神的・社会的問題と一緒に考え、患者さん、ご家族の方には安心して入院し、検査・治療に専念していただけるよう、サポートしていきたいと思っています。



### 外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00  
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)  
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811  
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ  
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。

### お見舞いについて

#### 【面会時間】

平 日	15:00~19:00
土・日・祝日	11:00~19:00
創立記念日	(2階西病棟13:00~19:00)
年末年始	

防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。  
時間内の面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。  
状況に応じ時間外会許可証を発行いたします。

### 編集後記

少し前の話になりますがポストにピンクの封筒が届いていました。市からのがん検診受診券でした。今年40歳になる私ですが、40歳を節目に色々と検査項目も増え、身体のことと真剣に向かわないといけない年齢だと実感しました。それと同時に「おじさんになったな…」と思いました。

項目には胃がん検診もあり、胃内視鏡検査は初めての事で、できるか不安です。ですが自分の身体のために頑張って受診しないといけないです。皆さんも健康診断受けて下さいね。

(中央放射線部 金子)



編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院 広報委員会  
〒285-8741 佐倉市下志津564-1 TEL.043-462-8811(代表)  
発行月：2018年7月【年4回（1・4・7・10月）発行】  
U R L : <http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp>



# SAKURAdayori

東邦大学医療センター  
佐倉病院の基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

## 佐倉全体で取り組む災害時救急医療体制の構築：「災害拠点病院活動」について

副院長 岡住 慎一

「首都直下型地震」は、今後30年内におこる可能性が70%と予測されています。千葉県佐倉市の災害時の行政体制は、県災害対策本部、災害医療本部(健康福祉部)、千葉県2次医療圏印旛地域合同救護本部(印旛保健所)、市町救護本部の連携で構築されます。佐倉病院は2016年3月災害拠点病院の指定を受け、合同救護本部において、日本医大千葉北総病院、成田赤十字病院の各災害拠点病院との連携で有事に対応します。平時の当院には、行政との連絡体制の整備、地域医療機関・消防との災害時シミュレーション・訓練を進めることが求められています。

当院では、2008年から地域消防と共に「救命と安全の連鎖研究会」を開始し、以来毎年多方面の課題を検討してきました。さらに、一昨年からは行政(市役所、保健所、消防、警察)と市内中核病院(聖隸佐倉市民病院・佐倉中央病院)、医師会代表の出席を得て、佐倉市の災害時医療に携わる全部署の当時者が一堂に会する場に拡大し、顔の見える連携を目的として、演題発表・討議を継続しています。本年は3月10日に第10回研究会を施行し、現状の課題の共有を図りました。佐倉消防長の開会の辞、市長の挨拶の後、行政からは、消防:「特殊災害対応～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」、佐倉市役所:「少子化対策と地域の救命・安全体制」、

佐倉警察署:「認知症関連問題」、印旛健康福祉センター長:「印旛医療圏救急・防災の現状」の演題発表を、地域医療機関からは、聖隸佐倉市民病院副院长:「当院における救急と防災への取り組みと現状」、佐倉中央病院院长:「地域の小病院における救急の現状と防災への取り組み」、佐倉市外への救急搬送の現状分析の試み」の発表をいただきました。当院からは、「救急外来の現状」、「DMAT活動」、「救急研修」について報告致しました。本研究会の模様は、佐倉地区医師会定例会でも報告され、佐倉地域の災害拠点病院活動として応援されています。今後も災害時地域医療連携体制の構築・維持を進めてまいります。



## 公開講座 糖尿病、食後の血糖値について

糖尿病・内分泌・代謝センター 大平 征宏



平成30年5月12日土曜日、佐倉病院7階講堂で公開講座が行われました。今回のテーマは糖尿病ですが、その中でも範囲を絞って特に食後の血糖値について話しました。健康診断で血糖値を測定する際には、何も食べない状態である空腹時の血糖を測定するのが通常です。また、糖尿病で医療機関を受診する際にも血糖値の測定は空腹時に行われることが多い、食後の血糖値を知るもしくは測定するという機会はほぼありません。しかし、最近の研究では食後の血糖値が高い方が糖尿病の合併症の一つである心筋梗塞の発症が多いことが分かっています。このような現状があり、今回は食後の血糖値に焦点を絞った内容としました。

まずは林田栄養士が食事中の炭水化物の割合についての話をしました。一部ではほぼ炭水化物を摂取しない食事方法が流行っていますが、極端な炭水化物の制限は身体によ



左から、大平講師、秋葉理学療法士、林田栄養士

悪影響を及ぼすことが分かっています。その中で、通常総カロリーの6割程度摂取している炭水化物を総カロリーの5割弱に減らすだけでも充分な炭水化物制限になるという内容でした。秋葉理学療法士は運動療法について紹介しました。食後約1時間経過した時に進行する運動は、食後の血糖値を下げるのに効果的であるという話でした。最後に糖尿病・内分泌・代謝センターの大平が食後の血糖値を測定する方法を話しました。通院している患者さんに限ってですが、現在は最長約2週間持続して血糖値を測定できる機械(持続血糖モニタリング)があります。この機器を用いて血糖値を継続的に測定することにより、食事中の炭水化物を総カロリーの55%から45%に制限した際に食後の血糖値が改善すること、食後の運動により同様に食後の血糖値が改善していることを確認することができました。

食後に血糖値を測定する機会はなかなかありませんが、今後は食後の血糖値も意識するようになる良いきっかけになったと思われます。



当日の会場の様子

## 2018年 公開講座のお知らせ (入場無料・申込不要・200席)

開催予定日	講演予定テーマ	担当
7月28日(土) 13:00~15:00	夏に気になる皮膚疾患	〈皮膚科〉 樋口 哲也 他
8月	休講	
9月22日(土) 13:00~15:00	通院で出来る、がん治療の進歩 〈がん撲滅月間〉	〈化学療法室〉 長島 誠 他
10月13日(土) 13:00~15:30	〈地域で考えるケアと治療〉 認知症とともに歩む “診断と治療”	〈神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部 他〉
11月24日(土) 13:00~15:00	ここまで進んだ! 消化器疾患の最新治療	〈消化器内科〉 松岡 克善 他

### ご参加お待ちしております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。

講演テーマなどの詳細につきましては、院内掲示およびホームページなどでご案内致します。ご不明な点や講演テーマのご要望などございましたら、総務課にご連絡下さい。

## 赴任のあいさつと消化器内科の紹介

消化器内科 松岡 克善



この度、2018年4月1日付で消化器内科に着任しました松岡克善と申します。私はこれまで慶應義塾大学病院および東京医科歯科大学医学部附属病院で消化器内科医として働いてきました。東邦大学医療センター佐倉病院・消化器内科で働くことへの期待にあふれています。

さて、この機会に消化器内科の紹介をさせていただきます。まず、当院の消化器内科は、炎症性腸疾患の診療に力を入れています。炎症性腸疾患は、潰瘍性大腸炎とクロhn病という二つの病気の総称ですが、患者数は近年急増しており、潰瘍性大腸炎が22万人、クロhn病が7万人の患者さんが全国にいると推計されています。合わせて30万人で、日本人の400人に1人が炎症性腸疾患の患者さんということになります。当院の消化器内科で治療している炎症性腸疾患の患者さんの数は全国でもトップクラスです。そして、炎症性腸疾患に対する最新の治療法をいち早く取り入れており、それぞれの患者さんに最も合った治療法を患者さんと一緒に選んでいます。また、カプセル内視鏡やMRI、CTといった負担の少ない検査法を取り入れているのも特徴です。

消化器内科は炎症性腸疾患のみに力を入れているわけではありません。消化器内科は非常に病気の数が多く、患者さんの数も多い診療科です。扱う臓器も食道・胃・十二指

腸・小腸・大腸・肝臓・胆嚢・脾臓と多彩で、病気の種類もがん、感染症、潰瘍、炎症、結石など様々です。当院の消化器内科は、こういった数多くの消化器疾患を全てカバーする総合的な消化器内科としての体制を整えており、あらゆる疾患に対して専門性の高い、最先端の医療を提供しています。また、消化器疾患の中には手術が必要になる病気も多くありますが、消化器病センターとして内科と外科との連携にも力を入れていますので、手術が必要な場合はスムーズに外科に移行できるのも当院の大きな特徴です。

消化器内科では、患者さんの視点に立ち、それぞれの患者さんにとって最善で最高、安全で安心の医療を提供していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



前列中央 松岡教授

## 認知症サポートチーム DST(ディーエスティー dementia support team)の紹介

神経内科 榊原 隆次



当院は2013年7月より千葉県認知症疾患医療センターに指定され、認知症の方とその御家族が住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、診断、治療に務めて参りました。

この度、入院患者さんに対する更なるケアの質向上のため、2018年4月に、「認知症サポートチーム:通称・DST」を発足させました。

主にご高齢の患者さんが入院すると、入院という生活環境の変化により、認知機能の低下が目立ってしまうことがあります。ご家族からの入院前の情報や、入院後の病棟看護師等による気づきにより、認知機能の低下が疑われる入院患者さんに対して、それぞれの認知機能に合わせた効果的なケア(転倒の防止、身体拘束や心理的負担感の軽減など)を提供することを目的としております。

チームの活動は、毎週1回、水曜午後の神経内科外来にて、榊原医師(チーム長・神経内科)、桂川医師(副チーム長・メンタルヘルスクリニック)、加藤医師(メンタルヘルスクリニック)、飯村看護師(看護部・認知症看護認定看護師教育課程修了)、尾形臨床心理士(神経内科)、鈴木精神保健福

祉士(メンタルヘルスクリニック)、寺山理学療法士(リハビリテーション部)のチーム員7名が集まり、約2時間かけて、30名ほどの入院患者さんを対象として検討会と病棟回診を行います。

なお入院患者さんの認知機能について、ご家族からのご相談を受け付けております。ご希望がございましたら、担当医師や病棟看護師などにお知らせください。認知症サポートチームで対応いたします。

私たち認知症サポートチームの活動により、患者さんの入院生活、および患者さんとそのご家族の退院後生活が、より良いものになることを望んでおります。



DSTメンバー一同